支援物資の安定供給を目指して 佐川急便と災害時における協定締結

災害時に被災者へ食料や生活必需品などの物資を安定供給するため、市は6月22日に佐川急便南九州支店（寺本直晃支店長）と災害時における支援物資の受け入れや配送等についての協定を結びました。協定では、避難所などへの支援物資の配送計画の策定や配送の実施、配送時における被災者の物資ニーズの収集などを想定しています。

締結式で寺本支店長は「過去の甚大な災害においても救援物資の輸送など行ってきた。その経験を生かし、社会的責務を果たしたい」と話しました

小林市産宮崎牛の高い品質を証明 JAみやざき枝肉共進会で最高賞

6月23日、ミヤチク高崎工場で開かれたJAみやざき和牛枝肉共進会で、市内肥育農家の岩下盛明さんの去勢牛がグランドチャンピオンに選ばれました。宮崎牛の品質向上を目指し行われる共進会に当日は県内各地から105頭が出品。受賞牛は枝肉の厚みや断面が非常に優れ、サシの細かさや脂の質などが高く評価され、最高賞に輝きました。

共進会では、岩下さんのほかにも、倉薗牧場が優等賞1席、馬場牧場が同3席に入るなど、小林市産宮崎牛の品質の高さを県内外にアピールしました

長年の子どもへの読書推進活動を評価

6月18日、野尻町読み聞かせグループ「たんぽぽ」が、子どもの読書活動優秀団体として文部科学大臣から表彰され、教育長が表彰状の伝達を行いました。同団体は、平成11年から野尻地区の保育施設や小・中学校で絵本や紙芝居などの読み聞かせを行っています。

地婦連が市長・教育長へ花束を贈呈

6月26日、小林市地域婦人連絡協議会（上原裕子会長）が父の日訪問として、市長と教育長に日頃の感謝を込めた花束を手渡しました。地域を支えるお互いの活動への敬意と感謝を伝える場として、平成14年から毎年続けられている取り組みです。

細野小・中学生が防災を楽しく学ぶ 第2回ほそのっこ防災フェスタ開催

6月25日、細野小･中学校で「第2回ほそのっこ防災フェスタ」が開催されました。今年は、細野まちづくり協議会と小林市SVCセンターの協力のもと、中学3年生が講師として小学生に防災の技術などを指導。参加した児童生徒は、簡易テントづくりや消火訓練など、さまざまなブースを体験しながら、楽しく防災を学んでいました。

上野海空さん（中学3年）は「小学生に分かりやすく教えるのが難しかった。災害時には、今回の訓練で学んだことを生かしてほしい」と話しました

犯罪や非行のない社会を目指して 第 76 回社会を明るくする運動

犯罪や非行のない地域を目指す「第 76 回社会を明るくする運動」のメッセージ伝達式が 7 月 1 日に開かれました。小林地区保護司会の川畑静子（かわばたしずこ）会長は「誰もが更生保護を当たり前に知り、立ち直りを支え合う輪を広げることが、安心安全なまちづくりにつながります」と語り、支援ボランティアへの第一歩を踏み出してほしいと訴えました。

更生保護女性会の岩下由美（いわしたゆみ）会長は「大人が考えるだけでなく、子どもの頃から優しさを育む関わりが、犯罪のないまちを持続させます」と強調しました

自衛隊から笑顔のプレゼント 園児にカブトムシなどを寄贈

陸上自衛隊えびの駐屯地の隊員でつくる曹友会が 6 月 30 日、朝日保育園を訪問し、園児 28 人にカブトムシやクワガタムシ約 60 匹をプレゼントしました。「子供達に笑顔」を合言葉に、隊員が休日に集めた昆虫を贈るこの活動は今年で 8 年目。園児らは歓声を上げ、うれしそうにケースの中に入ったクワガタムシを手にとっていました。

同園の坂下（さかした）エイ子園長は「絵本でしか知らない本物のクワガタを手にすることは子どもたちにとって良い経験になる」と隊員らへ感謝を伝えていました

放課後児童クラブに DVD 等を寄贈

6 月 29 日、公益財団法人藤井財団（藤井勝典（かつのり）代表）が市内の放課後児童クラブ 7 カ所に、偉人の人生をアニメ化した DVD などを寄贈しました。同財団は、子どもたちに夢と希望を持ってもらうことを目的に、全国の教育機関などに寄贈を行っています。

河川浄化等推進員を 22 人に委嘱

6 月 30 日、河川浄化等推進員の委嘱状交付式が行われ、再任 18 人、新任 4 人の計 22 人が委嘱されました。任期は 2 年間で、小林市が誇る豊かな水を守るため、ボランティアで河川の水質や環境の定期的な監視のほか、河川浄化の啓発行動などに取り組みます。

MX モバイリング株式会社が 企業版ふるさと納税で 70 万円寄付

3 月、全国で 300 店舗以上のドコモショップを展開する MX モバイリング株式会社（東京都）が市に 70 万円を寄付しました。7 月 2 日には市役所で感謝状贈呈式を行い、同社モバイル事業本部第 2 事業部九州支店の岡本幸三（おかもとこうぞう）支店長に感謝状を手渡しました。寄付金は市内で開かれた観光イベントの運営事業費として活用されました。

同社は全国で高齢者向けのスマートフォン教室も展開。岡本支店長は「小林市でも実施している。今後も可能な形で市に協力していきたい」と話しました

永久津中生が高校生と英語で交流
初の中高合同英語学習会を開催

7月13日、永久津中学校で2・3年生を対象に、同校出身の小林高校生と同校教諭を招き、中高合同英語学習会が行われました。これは、高校生と交流しながら英語を学ぶことで、生徒が将来の可能性を広げることを目的に実施されたもの。生徒たちは、高校生を手本に英語でディベートに挑戦するなど、楽しみながら英語力を磨いていました。

有村優希(ありむらゆき)さん（中学3年）は「高校生が英語を好きになった体験談などを聞くことができて楽しかった。今回の授業でより英語が好きになった」と話しました

多世代が集うにぎわいの拠点へ
駅前整備に向け提言書を提出

小林駅周辺の新たな拠点づくりに向けて協議を重ねてきた市民ワークショップが7月10日に市に提言書を提出しました。市と連携協定を結ぶ東京大学先端科学技術研究センターの近藤早映(こんどうさえ)准教授の助言を受けた、幅広い世代の13人が先進地視察などを経て考案したもの。今後、令和10年3月の完成に向け、具体的な整備事業へ移行します。

提言書では、全天候型多目的施設を市民交流の核とし、周辺の商店街へ自然な人の流れを生み出し、まち全体の回遊を促す仕組みが提案されました

吉都線の利用促進へ官民連携で草刈り

JR吉都線の利用促進と維持を目指し、7月7日に小林駅周辺で草の伐採作業を行いました。JR九州宮崎支社や市職員のほか、「吉都線に観光列車を呼ぼう！実行委員会」の市民ら約20人が参加。今後も参加者を募り、官民連携で取り組みを展開します。

溶接技術を競う小林地区大会を開催

7月11日、株式会社タネダで県溶接技術競技会小林地区大会が開かれました。溶接技術の研鑽と地域産業の振興を目的に実施している大会には計26人が出場。参加者はアーク溶接と半自動溶接の2部門で日頃から磨き上げた技術を競い合いました。

ウエイトリフティングで九州一
秀峰高校の遠矢さんが喜びの報告

6月に大分県で開催された第80回全九州高等学校ウエイトリフティング競技大会で優勝した、小林秀峰高校ウエイトリフティング部の遠矢輝(とおやひかる)選手（3年）が7月14日、市長を表敬訪問しました。遠矢選手は男子56㌔級に出場。スナッチ100㌔、クリーン＆ジャーク105㌔のトータル205㌔を記録し、見事優勝を果たしました。

遠矢選手は「今回の大会で見つかった課題を改善し、インターハイでは自己ベスト更新と上位入賞を目指して頑張ります」と力強く抱負を語りました